

日本保健医療社会学会ニューズレター (No.123) 2023/1/11

目次

1. 第49回大会について
2. 第49回大会演題申込等のご案内
3. 役員選挙について
4. 投稿規程および執筆要項の変更について
5. 理事会報告
6. 定例研究会（関東）報告
7. 定例研究会（関西）報告
8. 看護・ケア研究部会報告
9. 渉外・国際交流活動
10. 「保健医療社会学を学べる研究者」情報の募集
11. 社会学系コンソーシアム2022年度（第15回）シンポジウムのお知らせ
12. シンポジウム情報等のメール配信・学会ホームページ掲載希望について
13. 編集後記

1. 第49回大会について

第49回大会は、2023年5月27日（土）・28日（日）の2日間において、東京都立大学荒川キャンパスにて対面（状況によってはオンライン）で開催いたします。

大会テーマは、「実践の場をひらく-研究の可能性の再発見」です。

主要プログラムは、大会長講演に加え、大会テーマと同じテーマでの大会シンポジウムを企画しています。3名の登壇者それぞれに、フィールドに根ざした研究を紹介していただきつつ、みなさまと今後の研究の可能性について議論したく思います。また、理事会企画、「医学教育と社会学教育WG」主催シンポジウムとして、「医学教育においてなぜ社会学を学ぶ必要があるのか」も予定しております。

演題応募は、一般演題（口演と示説）ならびにラウンド・テーブル・ディスカッションともに、2023年1月20日（金）17時に受付終了となっています。詳細は、12月に開設いたしました大会ホームページ（<https://jshms-conference2023.jp>）をご参照いただけますと幸いです。新型コロナウイルスのパンデミックによって研究活動においても様々な制約を受けていますが、本大会が本学会員のみなさまと研究成果を共有する場となることを願っております。

参加登録については、3月中旬を予定しています。

多くのみなさまの演題登録、ご参加を心よりお待ちしております。

（第49回大会実行委員長：村上優子氏 [東京都立大学]

第49回大会長：西村ユミ氏 [東京都立大学]）

2. 第49回大会演題申込等のご案内

先日の会員一斉メールにてお知らせした通り、第49回大会の演題等の申込が開始となりましたので、申込期間をお知らせいたします。多くの皆さまのお申し込み、およびご参加をお待ちしております。

一般演題申込期間：2022年12月6日（火）～2023年1月20日（金）17時（受付厳守）

RTD発表申込期間：2022年12月6日（火）～2023年1月20日（金）17時（受付厳守）

事前参加受付期間：2023年3月中旬スタート予定です。

なお、演題等申し込みの詳細は以下の大会ホームページ (<https://jshms-conference2023.jp>) に記しておりますので、ご検討の方々はご参照ください。

(天田理事：研究活動担当)

3. 役員選挙について

「日本保健医療社会学会規約」および「役員選出に関する内規」に基づき、2023年2月に次期の理事7名、監事2名の選挙を行います。理事・監事共にWeb選挙での投票となりますので、ご理解ご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

1) 投票期間

2023年2月10日（金）9時から2023年2月28日（火）17時まで

2) 理事選挙における選挙人および被選挙人資格について

「学会規約」第13条6項及び「役員選出に関する内規」第2条により、選挙人および被選挙人の資格を有する者は、それぞれ以下の条件をすべて満たす会員です。

<選挙人資格>

- (1) 会員歴2年以上
- (2) 2021年度までの会費を2023年1月末日までに納入した通常会員、シニア会員、学生会員

<被選挙人資格>

上記選挙人資格者の内「学会規約」第13条3項と5項の規定により、以下の会員には被選挙人資格がありません。

- (1) 連続して2期選任された現理事
- (2) 会長経験者（現会長を含む）
- (3) 通算5期以上理事経験者
- (4) シニア会員、学生会員

なお、名誉会員には選挙人および被選挙人の資格がありません。

3) 監事選挙における選挙人及び被選挙人資格について

「学会規約」第14条3項により、選挙人および被選挙人の資格を有する者は、以下の条件をすべて満たす会員です。

- (1) 会員歴2年以上

(2) 2021年度までの会費を2023年1月末日までに納入した通常会員、シニア会員、学生会員
ただし、「学会規約」第14条2項の規定により、連続して2期選任された現監事には監事の被
選挙権人資格はありません。

なお、名誉会員には選挙人および被選挙人の資格がありません。

4) 投票方法について

後日電子メールにてご案内いたします。

(戸ヶ里理事：総務担当)

4. 投稿規程および執筆要項の変更について

『保健医療社会学論集』編集委員会では、ホームページに掲載されている投稿規定・論文執筆
要項の改訂を予定しております。1月また2月のホームページ更新の際に改訂版を掲載し、2023
年3月末締め切り投稿論文から適用となります。また、本誌は2023年7月末発刊予定の34巻1
号から改訂版執筆要項に合わせた表記となります。

大まかな変更箇所としましては、投稿規定では、二重投稿・再投稿に関する規定部分に変更と
なります。論文執筆要項では、これまで大まかに準拠してきた『社会学評論』スタイルガイドの
近年の変更等に合わせ、「訳書の表記」や「文献リストの記載方法」の若干の変更がなされます。
投稿予定の会員の方は、投稿前にあらためてご確認ください。

(井口理事：学会誌編集担当)

5. 理事会報告

2022年12月19日(月)に2022年度第3回理事会が開催されました。詳細は以下の通りで
す。

日時：2022年12月19日(月) 16:00~19:00

会場：ZOOM会議

出席者：小澤会長、戸ヶ里理事、天田理事、伊藤理事、本郷理事、前田理事、井口理事、石川理
事、心光理事、西村大会長(第49回)、吉田大会長(第50回)、朝倉監事、蘭監事
事務局 平野(記 国際文献社)

欠席者：田代理事

1. 第49回大会報告(第49回大会長：西村先生)

西村第49回大会長より資料の通り、開催方法、予算案について伝えられた。開催方法は原則
対面開催とし、対面開催が難しいと判断された場合はオンライン開催にしたいとの提案があり、
承認された。予算案について参加費は例年通りとし、早期登録料の設定はしないとの説明があ
った。ホームページ及びチラシ作成が安価なことから予備費として4万円程計上されているこ
とが伝えられた。

懇親会の開催は検討中であること、参加登録は例年通り3月中旬に申込開始予定であるとの
報告があった。

2. 第50回大会について(第50回大会長:吉田先生)

吉田第50回大会長より資料の通り、運営体制について報告があった。開催日は2024年5月25-26日か、2024年5月11-12日のどちらかで調整し、原則対面開催を検討していることが伝えられた。

会場費は理事会で妥当な金額と認められた場合に学会本体より会場費分を支援することが伝えられた。

吉田第50回大会長より理事会企画の開催を今期理事会で決定してほしい要望があった。50回大会という記念すべき大会であることから理事会企画を行うこととし、企画内容については次期理事会へ引き継ぐこととした。また、懇親会は大会校としては開催しないことについて報告があった。

3. 編集委員会報告(井口理事)

井口理事より資料の通り32巻2号の進捗状況、34巻1号の特集について伝えられた。

二重投稿等に関して投稿規定を資料の通り改訂する予定であるとの説明があった。

EBSCOへの論集掲載については初回代行費用が発生することが伝えられ、その後の管理をどうするか等を含めて編集委員会で検討することとなった。費用については編集事務経費から支出することが確認された。

4. 国際文献社への事務委託契約(編集含む)について(戸ヶ里理事)

戸ヶ里理事より資料の通り、次年度の契約書について説明があり、後日、メール審議を行うこととした。

5. 2022年度前期予算執行状況(戸ヶ里理事)

戸ヶ里理事より資料の通り、例年通り推移しているとの説明があった。

6. 研究活動委員会報告(天田理事)

天田理事より資料の通り、49回大会企画について伝えられた。

12月に1回、3月に2回、定例研究会を行うとの報告があった。

7. 看護・ケア研究部会の報告(伊藤理事)

伊藤理事より12月27日に定例研究会と共催で49回大会プレ企画を開催するとの報告があった。

8. 渉外・国際交流活動の報告(石川理事)

石川理事より資料の通り、国際学会とGEAHSSシンポジウムの情報が伝えられ、メール配信やホームページへ掲載することとした。

9. 園田賞選考委員会について(天田理事)

天田理事より研究活動委員長を選考委員長、研究活動委員を選考委員としたいとの提案があり、承認された。例年通り、3月上旬に選考委員会を開催し、次回理事会にて選考結果を報告することが伝えられた。

10. 名誉会員推挙について(戸ヶ里理事)

戸ヶ里理事より推挙要件の1つである70歳以上で会長経験者または理事・監事通算10年以上務めた会員は該当者なしとの報告があった。小澤会長より推挙要件の1つである社会的評価

を高める功績及び学会の発展に特段の功績を挙げた会員について提案があり打診を進めていくこととした。

11. 役員選挙について (小澤会長・戸ヶ里理事)

戸ヶ里理事より学会規約改正に伴い、役員選出に関する内規を改正する必要があることが伝えられた。資料の通り改正案が提案され、承認された。選挙方法は前回同様にオンライン選挙とし、国際文献社に委託することが提案され、承認された。選挙管理委員として、秋谷直矩会員と瀬戸山陽子会員が選出された。スケジュールは資料の通り2月10日投票開始とした。

12. ニューズレター123号の配信について (心光理事)

心光理事より資料の通り、ニューズレター123号の目次案について伝えられた。看護・ケア研究部会の原稿は看護・ケア研究部会から直接、心光理事へ提出してもらうこととなった。49回大会の発表演題申込締切が1月20日であることから、1月6日に原稿締切とし1月13日に発行予定とすることとした。

資料の通り、学会外部のシンポジウム等の情報掲載希望はできる限りまとめて行なう旨の申し合わせの提案があり、承認された。

13. 入退会者の承認について (戸ヶ里理事)

戸ヶ里理事より資料の通り、新入会11名の承認依頼があり、承認された。また、退会1名の報告があった。

14. その他

天田理事より資料の通り、5月28日の49回大会にて医学教育ワーキンググループのシンポジウムを開催すること、登壇者は調整中であることが伝えられた。

以上

(戸ヶ里理事：総務担当)

6. 定例研究会 (関東) 報告

2022年度第2回関東定例研究会を下記の通り開催します。今回は、エスノメソドロジー・会話分析研究会2022年度春の例会との共催で、「保健医療のEMCA研究」の書評セッションを行います。対象書は、樫田美雄氏の著書『ビデオ・エスノグラフィーの可能性——医療・福祉・教育に関する新しい研究方法の提案』と、河村裕樹氏の著書『心の臨床実践——精神医療の社会学』となります。樫田氏、河村氏には、お互いの著作へのコメントもお願いしております。保健医療社会学の研究者でEMCAをはじめ質的研究に関心がある参加者と、EMCA研究者で保健医療にかかわる領域に根ざした研究を行っている参加者の間で議論を共有する機会と考えております。ぜひ奮ってご参加ください。

日時：2023年3月11日(土) 14:00~17:00

場所：立教大学池袋キャンパス 15号館 M301・M302

(対面での開催を前提とします。補助的な手段として、Zoomによる配信を予定しています。ただし、トラブルがあった場合、十分な対応ができない場合があります。当日の個

別のお問い合わせには返答できかねますのでご了承下さい。)

書評対象書：

・榎田美雄（神戸市看護大学）『ビデオ・エスノグラフィーの可能性——医療・福祉・教育に関する新しい研究方法の提案』（晃洋書房、2021年）

・河村裕樹（一橋大学）『心の臨床実践——精神医療の社会学』（ナカニシヤ出版、2022年）

参加費：無料（会員・非会員とも）

事前参加申込：下記より 2023年3月9日（木）までにお申し込みください（フォームにてお申し込みいただかなくても、当日対面にて参加可能ですが、できる限り事前登録をしていただきますようお願い申し上げます）。

2022年度第2回関東定例研究会参加登録フォーム

<https://forms.gle/De69zEktDj2uzFEJ8>

（前田理事：研究活動担当）

7. 定例研究会（関西）報告

2022年度第2回関西定例研究会を下記の通り開催します。

日本ではわが国の老衰による死亡割合が近年増加傾向にあり、死因の第3位になっています。日本における老衰死の診断は欧米と比較してかなり多いことが知られています。死亡場所の中心が病院である日本においても、治療や入院のための疾病概念とは異なる死亡診断には死生観や文化の影響が少なくないと思われます。今後一層進展する超高齢・多死社会において、死にゆく人への医療や看取りは、全ての人にとって避けられない身近で重要なものになるでしょう。

今回の研究会では、人類学的研究アプローチによって、地域包括ケアシステムと地域や人々に通底する死生観や人格観、家族観を射程におきながら、新たな「看取り文化」の構想を目指す研究に取り組んで来られた浮ヶ谷先生に話題提供をいただきます。ご報告の内容は、2022年8月上梓された浮ヶ谷幸代・田代志門・山田慎也編『現代日本の「看取り文化」を構想する』（東京大学出版会、2022年）の研究成果やその後の発展や展開についても触れていただく予定です。

開催方式は、研究会会場にて対面と Zoom 併用による開催を予定しています。開催日が近くなりましたら、申込者に対してオンラインの接続情報をご連絡します。みなさまの奮ってのご参集を心よりお待ちしております。

日時：2023年3月5日（日）13:00～16:00

方法：ハイブリッド（京都キャンパスプラザ第6講習室+オンライン）

※新型コロナウイルス感染症の流行状況次第でオンラインに変更

報告者：浮ヶ谷幸代（相模女子大学名誉教授）

テーマ：現代日本の「看取り文化」を構想する

申込先：2022年度第2回関西定例研究会参加登録フォーム

<https://forms.gle/sAR5YnauAkKJi5Ru9>

申込期限：2023年2月28日（火）17時締切

(本郷理事：研究活動担当)

8. 看護・ケア研究部会報告

1) 公開定例研究会の開催

今年度の公開定例研究会を研究活動委員会との共催で2022年12月27日(火) (14時～17時)にZoomを用いたオンライン形式で開催しました。今回は、2023年5月27日(土)・28日(日)に東京都立大学で行われる第49回大会を盛り上げるべく、大会連動企画として実施しました。84名の参加者がありました。

第49回の大会テーマは「実践の場をひらく—研究の可能性の再発見」です。そこで、さまざまな実践の場に赴き継続的な研究を行ってこられた大阪大学の村上靖彦さんにご登壇いただき、「自閉症・看護・子ども子育て支援—現場でのフィールドワーク」と題してご講演いただきました。村上さんからは、自閉症や看護に関する現象学研究のフィールドワークについてお話しいただき、これらを通して得られた視点として、人々の個別の経験の中に他の人たちにとっても意味を持つ内容があること、一人称から見た世界の構造、構造はディテールを尊重することで取り出すことが出来るなど、たいへん示唆に富む解説・問題提起をいただきました。また、子育て支援の現場でのフィールドワークのご紹介と、そこから導き出された現象学的な倫理学とは何か、という問いについてお話しいただきました。

続いて、1人目の指定討論者として東京大学大学院の三枝七都子さんにお話しいただきました。三枝さんからは、ご自身がフィールドとしている「富山型」のデイサービスにおけるケアとの対比の視点から村上さんのお話をレビューしていただきました。そうした中で、フィールドのアクター間で主張が対立することはないのかといった問いも投げかけられました。

2人目の指定討論者、東京大学医科学研究所の木矢幸孝さんからは、フィールドワークにおいて「研究協力者から学ぶ」という点に着目して村上さんのお話から得た示唆などが述べられました。また、調査という営みのダイナミックさを改めて評価する視点が提示され、村上さんのお話を理解する上でのキーワードとして「普遍とは」「構造とは」「代弁する営み」といった点について、村上さんへの問いかけがありました。

その後、お二人の指定討論を受けて、村上さんからのリプライがありました。「アクター間の主張の対立」については、それぞれの見方は異なるもので、ポリリズムの視点の重要性が述べられました。「協力者から学ぶ」という点については、どれだけ学ぶことが出来るかで仕事／研究のクオリティが決まるという点が示されました。

最後に、参加者も交えた全体討論が行われました。この中では、「個別」から「真理」に達する「回路」についての関心が示され、また、これに対して村上さんからは、客観性に基づく学問の在り方とは違ったような、「真理」にたどり着く学問の在り方があるというお話もあり、非常に有意義な意見交換の場となりました。

2) 看護・ケア研究部会第3回研究例会のご案内

日時：2023年3月11日(土) 14:00～17:00

方法：オンライン開催

1 席目 発表者：田代順さん

内容：SV を行っている緩和ケア病棟のソーシャルワーカーの実践＝緩和ケア病棟における「パラレルチャート」的実践による病棟文化・スタッフ文化の「変容」他を報告します。

*2 席目のご発表希望を下記で受け付けております。

ご希望の方は下記からお申込みください。

<https://forms.gle/oPMY9J4MbnPwCGZ17>

(松繁卓哉氏：看護・ケア研究部会副部長)

9. 渉外・国際交流活動

本学会も加盟している人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会 (Gender Equality Association for Humanities and Social Sciences、略称 GEAHSS) から、第6回公開シンポジウム「人文社会科学系学協会・大学におけるジェンダー平等の現状と課題」のご案内がありました。

詳細はこちら。 https://geahssoffice.wixsite.com/geahss/single-post/news_20221209

日時：2023年3月26日(日) 13時30分～17時

開催方法：ZOOMによるオンライン開催・参加無料・事前申込制・定員500名

第1部 基調講演 「ジェンダー平等教育の国際比較——初等中等教育の功罪」

講師：河野銀子(山形大学、教育社会学、国際ジェンダー学会)

第2部 パネルディスカッション 「学協会・大学におけるジェンダー平等」

座長：安藤由美(GEAHSS 幹事・日本社会学会)

パネリスト：石井クンツ昌子(お茶の水女子大学)、海妻径子(岩手大学)、高橋裕子(津田塾大学)

全体討論：パネリスト、河野銀子、伊藤公雄

国際交流委員会では、引き続き、関連する分野の国際学会や海外研究者招聘の予定、学会員の参加が可能な講演・セミナー等の情報提供を行っております。皆様からも、ぜひ情報をお寄せください。現在、以下について学会ホームページでもご案内しています。

- 第12回 IAGG アジア/オセアニア国際老年学会議 (IAGG-AOR2023)
- 第20回世界社会学会 (ISA, World Congress of Sociology)
- アメリカ社会学会 2023年大会 (第118回年次総会) (American Sociological Association)
- 欧州医学教育学会 (AMEE, The Association for Medical Education in Europe)
- ヘルスケアコミュニケーション国際会議 (ICCH, International Conference on Communication in Healthcare)

(石川理事：渉外・国際担当)

10. 「保健医療社会学を学べる研究者」情報の募集

本学会では会員からの自主的な提供によるデータに基づき「保健医療社会学が学べる研究者」

のリストを作成し、学会ホームページ上に掲載いたしております

(<https://square.umin.ac.jp/medsocio/list-researcher.html>)。

このリストに掲載をご希望の方は、上記ページにある「掲載情報」(Excel ファイル)にご記入の上、学会事務局までメールでお送りください。常勤であることや研究室を持っていることは、情報を掲載する条件ではないので、非常勤教員の方もどうぞ情報をお寄せください。

掲載内容は毎年度末に掲載継続・更新のご要望をお尋ねし、掲載継続の希望が示されたもの以外は年度末で削除します。なお、すでに掲載をされている方で、情報の変更や削除を希望される方は、事務局までお知らせください。

(心光理事：広報担当)

11. 社会学系コンソーシアム 2022年度(第15回)シンポジウムのお知らせ

当学会が参画している社会学系コンソーシアム主催のシンポジウムが開催されます。参加ご希望の方は以下の URL にアクセスして必要事項を入力ください。先着 500 名まで参加可能です。

参加申し込み：<https://forms.gle/TjNjNMnts4HRwM1q9>

社会学系コンソーシアム 2022年度(第15回)シンポジウム

「ダイバーシティ推進と日本社会の<不平等>」

主催 社会学系コンソーシアム・日本学術会議社会学委員会

日時：2023年1月28日(土) 13:00~16:00 (ウェビナーによるオンライン開催)

司会 伊藤 守 (早稲田大学教育・総合科学学術院教授、日本メディア学会)

木下武徳 (立教大学コミュニティ福祉学部教授、日本社会福祉学会)

開会の挨拶 佐藤嘉倫 (日本学術会議会員、京都先端科学大学人文学部教授・東北大学大学院文学研究科教授)

シンポジウムの趣旨説明 伊藤 守

第1報告(20分) 樋口直人 (早稲田大学人間科学部教授、関東社会学会)

「ダイバーシティは不平等を推進するのか、是正するのか：移民研究の立場から」

第2報告(20分) 山田信行 (駒澤大学文学部教授、日本労働社会学会)

「企業におけるダイバーシティを阻んできたもの：歴史的視点から」

第3報告(20分) 田垣正晋 (大阪公立大学現代システム科学域教授、日本社会福祉学会)

「障がい者という／におけるダイバーシティ」

第4報告(20分) 林 香里 (東京大学情報学環教授、日本メディア学会)

「ダイバーシティから見る日本のジャーナリズム」

休憩

コメンテータからの質問ならびに質疑 (2人×10分)

堅田香緒里 (法政大学社会学部准教授、福祉社会学会)

江原由美子 (東京都立大学名誉教授、日本社会学会)

報告者からのリプライ・参加者からの質問

閉会の挨拶 和気純子 (日本学術会議会員、東京都立大学大学院人文科学研究科教授)

詳細は社会学系コンソーシアムホームページをご参照ください。

<http://www.socconso.com/index.html>

(戸ヶ里理事：総務担当)

12. シンポジウム情報等のメール配信・学会ホームページ掲載希望について

会員や学会外部機関から事務局へお寄せいただく学会外部のシンポジウム等の情報につきましては、会員に関連する情報を選択してニューズレター配信メールやホームページにて記載させていただきます。ただし、メール配信やホームページ更新に対する委託料が発生するため、できる限りまとめて行う関係上、ご連絡が開催または申込締切まで1ヵ月を切る場合には配信・掲載が間に合わない場合があります。あしからずご了承ください。

(心光理事：広報担当)

13. 編集後記

ニューズレターNo.123では、第49回大会の続報に加えて役員選挙、機関誌の投稿規定・執筆要項の変更など、重要なお知らせを多くお届けしました。情報はホームページにも順次反映してまいります。

日本保健医療社会学会ニューズレターは、No. 92からPDFファイルのメールマガジン形式で配信しています。また学会ホームページ (<https://square.umin.ac.jp/medsocio/>)でも公開しています。

(心光理事：広報担当)

発行：日本保健医療社会学会	編集：広報担当 (心光世津子)
学会事務局：東京都新宿区山吹町358-5	アカデミーセンター
jshms-office@as.bunken.co.jp	TEL：03-6824-9375